

Erd(3γ-ス以降)【血液】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		デキソト+ファモチジン+ポラミン	副作用予防のお薬です。 デキソト：治療のお薬、吐き気止め ファモチジン、ポラミン：過敏反応
2		IM ^o リシテ	治療のお薬です。約50分かけて点滴します。

内服薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		加ナル細粒	副作用予防(過敏反応)のお薬です。
2		レブミドカ ^o セル	治療のお薬です。3週間内服し、1週間お休みします。
3		レデックス錠	治療のお薬です。8、22日目に内服します。

投与スケジュール

薬品名	日数																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
IM ^o リシテ点滴静注	↓														↓													
デキソト注射液	↓														↓													
レブミドカ ^o セル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	休	休	休	休	休	休	休
レデックス錠4mg							○															○						

3γ-ス以降

IM^oリシテ：1、15日目に投与します。

レブミドカ^oセル：1日目から服用し、21日間飲んで1週間お休みします。

レデックス：8、22日目に服用します。

ERd療法（3J-7以降）【血液】

よく起こる副作用

★過敏反応（インフージョンリアクション）

発生時期 薬剤投与中～投与開始後24時間以内

症状 発熱、疼痛、ほてり、頭痛、頻脈・心悸亢進（心拍数が著明に亢進すること）、血管浮腫（舌・喉のはれとして認められることがあります）、咳・呼吸困難、そう痒（かゆみ）、吐き気、虚脱感、悪寒（震え）、発疹などがあらわれることがあります。

対処法 ○インフージョンリアクションのおそれがある場合は薬剤の投与前に予防薬を投与します。
○点滴中、点滴後（特に24時間以内）においても気になる症状が現れた場合には、すぐに医師や看護師・薬剤師に知らせてください。

★骨髄障害

発生時期 薬剤投与日から7～14日に減少します

症状 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球（細菌などから体を守る）、血小板（出血を止める）、赤血球（酸素を運ぶ）の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制（障害）といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

- 感染症：37.5℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など
- 貧血：疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など
- 出血：紫斑（原因不明のあざ）、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

対処法 ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。
○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。
○血が止まりにくくなることがありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。
○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

頻度は少ないが注意を要する副作用

★間質性肺炎

発生時期 薬剤投与後数日～数週間

症状 ○発熱、から咳、呼吸困難（息苦しい）、頭痛、倦怠感などの風邪のような症状があらわれることがあります。

対処法 ○起きる頻度はまれですが、症状の軽いうち（風邪のような症状）から治療する必要があります。

その他の副作用

★全身倦怠感

★全身倦怠感

- 発生時期** 治療開始日から数週間～数ヶ月。数コース継続して点滴した後に起こりやすいです。
- 症状** ○疲労感・倦怠感・脱力感がおきることがあります。
○原因ははっきりしていませんが、体がん細胞を取り除いたり、抗がん剤に対して反応したりすることによって余分なエネルギーを使うことや、治療に対するストレスなどが考えられます。ほとんどが抗がん剤の副作用によるものであり、病状が悪化しているせいではありませんので心配はいりません。
- 対処法** ○睡眠や休養を十分とりましょう。
○趣味やお友達とのおしゃべりなどで気分転換するのもよいでしょう。
○疲れたときや、精神的につらい時は仕事や家事は後回しにして、できるだけ体を休めて無理をしないことが大切です。
○気持ちがリラックスできるような音楽を聞いたり、体をしめつけない服を着るなどしてゆったりと過ごすことをこころがけましょう。

★下痢

- 発生時期** 薬剤投与日から数日～数週間後に起こります。
- 症状** 水のような便が夜間をとわず頻回に出ます。ときどきおなかがしぶるように痛くなります。
- 対処法** ○感染症を防ぐ為、排便後は肛門の周りを清潔に保ちましょう。
○周期的な腹痛、1日5回以上（もしくは通常よりも3回以上多い排便）の排便、夜中の下痢便が起こった場合はお知らせ下さい。
○症状によっては下痢止めが使われることがあります。
○下痢がひどくなり、液状・粘膜状の便が続く時、あるいは血便や強い腹痛があるときはお知らせください。
○食事は温かく消化吸収のよいものを取りましょう。
○下痢によって水分が失われるので、スポーツドリンクなどで水分をたくさんとりましょう。
○辛い食べ物、冷たい食べ物、炭酸飲料やコーヒーも避けましょう。

★便秘

- 発生時期** 薬剤投与後数日～数週間後に起こります。通常お薬投与終了後1週間以内に回復します。
- 対処法** ○症状に応じて下剤が処方されることがあります。

★その他

- 症状** 目のかすみ、視界が白く濁る、眠れなくなる、のどの渇き（高血糖）、発疹、筋肉痛などの症状があらわれる場合があります。
- 対処法** 気になる症状があらわれたら、すぐ医師に相談しましょう。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するときの一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院（薬剤部）

